

🚩 3 立ち上げ期



1
平常時



2
警戒期



3
立ち上げ期



4
復旧期



5
生活支援期



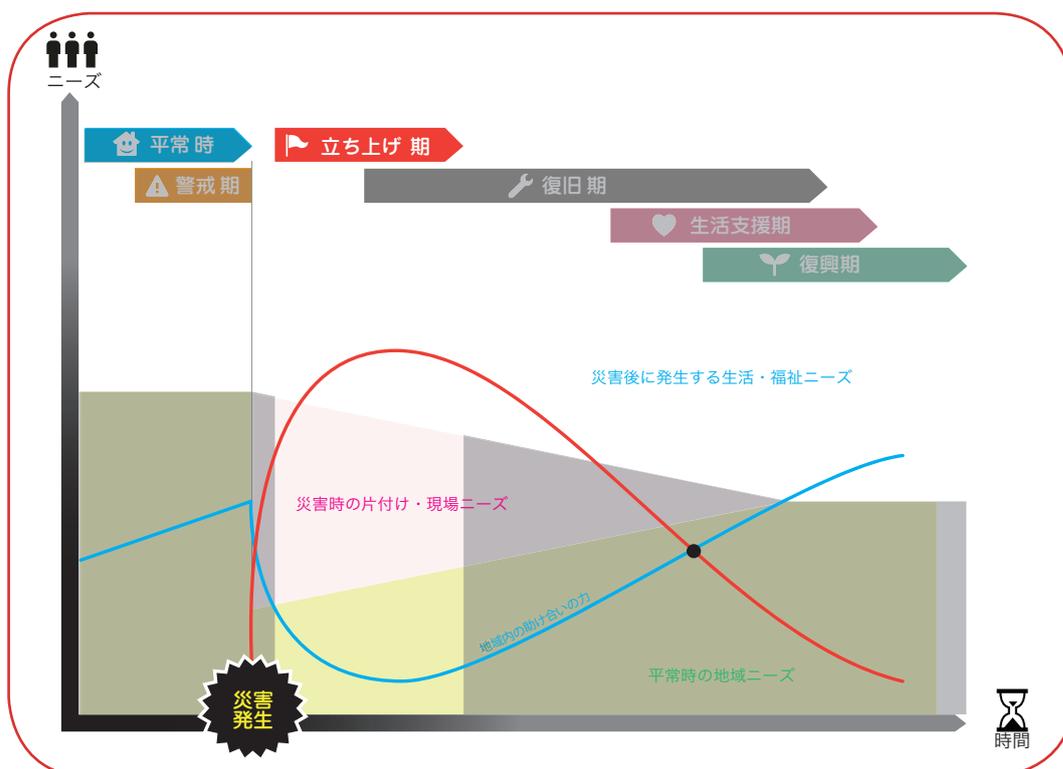
6
復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン



3 立ち上げ期

被害状況を確認し、災害VCの立ち上げを協議する時期。災害発生から72時間は救命・救援のための活動が最優先されます。



立ち上げ期 ~立ち上げ判断から初動期へ~

災害発生後、被害の状況を確認し、災害VCの立ち上げ(非常時体制への移行)について、関係者が集まって協議します。明文化されている判断基準だけでなく、地域をよく知っているからこそ分かる”独自のモノサシ”(判断の目安)についても普段から共有しておくことも大切です。

1 立ち上げ期の運営のポイント

立ち上げ期には、迅速な情報収集と立ち上げについての判断が求められます。また、近年は災害VCの取り組みの認知が広まっており、災害時の災害VCの動向について注目されるようになってきています。立ち上げをする／しないに関わらず、センターの動向について意識的に発信することが必要です。

2 災害発生から立ち上げ判断へ

被害を受けた地域の状況を確認し、可能な限り発災後に災害VCの立ち上げについて協議します。立ち上げの判断については、実際に市町村災害VCの運営にあたる者が、現場を見て、被災状況および二次災害について調査・確認し、必要性について判断し、行政(災害対策本部)や関係機関と迅速に協議することが必要です。

また、被害の状況や地域性によっては、災害VCを立ち上げないという選択もあります。常設型災害VCのネットワークや資源を活かして、被災した地域にとって最もよい支援の方法を検討します。

(1) 参集

職員あるいは災害VC運営委員(会)など運営に関わる団体等へ参集を呼び掛けます。

(2) 情報収集

被害状況及び被災者の状況等について、できる限り情報を収集し把握します。

① 被害に関する情報を収集

災害対策本部と連携し、最新の情報を収集します。

② 被災者の支援ニーズの収集

被災者の状況、支援ニーズは現地へ赴き収集する。地元町内会や民生委員等の関係者の協力を得る必要があります。

(3) 設置の判断

収集した情報を基に行政及び関係団体と協議し、設置(非常時移行)の判断をします。

災害の規模、もともとある地元の助け合いの力がある場合などは、設置(非常時移行)しないという判断もあり得ます。

立ち上げ期の災害VC運営のポイント

- 行政(災害対策本部等)や災害VC加盟団体、地域のネットワークからの情報収集
- 被災地域を実際に目で見て確認
- 災害VCの立ち上げについて判断
- 立ち上げをする/しないに関わらず、センターの動向の情報発信
- 災害VC立ち上げにあたってのインフラ整備
- 災害状況に合わせた災害VCの運営スタイルの検討

コラム

”ボラセンの立ち上げ”とは？

「ボラセン立ち上がりました」のように漠然と表現しているけれども、そもそも「立ち上がる」って状態はなに？って思ってしまいます。各地域に同時多発する災害で、それぞれボラセンを組織して活動をするわけですが、終わってしまえば、「あのセンターは問題があった」とか「あそこはよかった」とか、広域を見ている関係者やボランティアはなんとなくぼんやりと評価しています。

それはともかく、各地域によってそれぞれの事情があるでしょうが、共通して言えることは、そのまちにはそのまちの「まちづくりに情熱を燃やしている団体」や「郷土愛に溢れる団体」が必ずあるということです。そんな団体は、わが地域が被災した！となれば、勝手にスイッチが入るはず。

普段とは違い、人間「いざ」という時に本気になれるかどうかです。わがまちが、故郷が、そのこの住む人が、今まで一生懸命働いて買った家電製品が、小さい頃からの思い出の数々が、努力と汗と時間が突然奪われて打ちひしがれているありさま。これを見てパイレーツオブカリビアンテーマが胸の奥から鳴り響かないなら、「まちづくりや郷土愛」を語るな！と言いたい。

夏の夜、とある高速道路を走っていると一台の乗用車が中央分離帯に激突して止まっていた。他の車はなんとか通れる隙間があったのでみんな減速して通過していきます。私もゆっくり横を通過した時に気が付きました。中に人がいる！車を停めて近づくと、運転していたお父さんはハンドルで胸を打って声が出せない状態。助手席のお母さんもうずくまり、後部座席で2人の子供が泣いています。「救急車は呼びましたか？」の問いかけにも答えられない状態です。自分が通れる隙間があれば通過していくのか？これが人間のやることか？そのことが本当に怖いと思ったできごとでした。

わがまちが被災してしまった時、あなたのまちのボラセンが本当の意味で立ち上がるのは、あなたの胸の奥から、小さな何かが聞こえてきた時です。あなたの力が必要なのです。パイレーツオブカリビアンテーマを口ずさみながら、自分に何ができるかを考えながら、向かおうじゃないですか！

3 立ち上げ期

災害発生

24時間以内

参集

「緊急事態!とにかく集まれ!」

情報収集

「どうなってるん?」

設置(移行)の判断

「緊急事態!とにかく集まれ!」
「さあーやるで!」

腹をくる!

★設置(移行)する場合

災害発生から少なくとも72時間以内に運営を開始できるように準備する。

★設置(移行)しない場合

何をもって設置しない判断をしたのか、今後の対応を含め丁寧な説明をする。

設置場所の選定

「どこに、ボランティアセンター設置する?」

住民・関係機関への説明

「私たちが寄り添います!」

組織編成

「ボランティアセンターのサイズ、これでいこ!」

関係機関や団体と協力して、地域の力で取り組む。

センター事務所設置・広報活動

「〇〇ボランティアセンター設置しました。
ボランティア募集は〇月〇日からします。」

災害ボランティアセンター運営開始

72時間以内

1 平常時

2 警戒期

3 立ち上げ期

4 復旧期

5 生活支援期

6 復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン

コラム

自分の目で被災地を見ることの大切さ

災害が起こり、災害VCを立ち上げることとなった際に”しなければならないこと”は小さなことから大きなことまで本当にたくさんの事があります。その中でも特に大切となる事は、現地職員はまず、被災した現地へ自分の足で、自分の目で見に行くことだと思います。

日ごろみている『まち』と、災害の起こった『まち』は想像をはるかに超えた現状となっている事も多くあります。

自分の目で確認することによって、地域からニーズが上がってくる中で、どの程度のボランティアの支援が必要か、ボランティアが危険に遭うことはないか、二次災害の可能性はないかを考える重要なポイントとなります。

そして何より大切なのは、災害が起こり不安になっている被災者住民に、日ごろ関わりのある職員が顔を見せることで安心感を与え、繋がりが再確認でき、絆が深まることではないでしょうか。

コラム

関係者を増やす努力

確かに膨大な実務が目前にあり、焦りや不安が先行するでしょう。ボランティアの受け入れ開始までに不可欠な事柄だけでも多種多様です。ただ、こうも災害が頻発する日本ですから、実はかなりの部分がマニュアル化されていて、よほどのことがない限りは物理的な要素の漏れは少ないのかもしれない。「漏れがあってもなんとかなる」という気持ちでいても大丈夫だと思います。ですから、もう少し広く長い視野に立って、我がまちのセンターを考えてみてはいかがでしょうか？それはマニュアル化されていない部分かもしれません。

「関係者を増やす努力」。一見「なんだ、そんなことか」とか「面倒なだけ」にも思えるこの「努力」が、後にじわじわ効いてきます。それは新聞記者なのかもしれないし、地元の議員かもしれない。うるさいおばちゃんや、まちづくり野郎、無口なおジサンとか、学生なんかもいいかも。この町を構成する各界・各層の人たちと「共に災害から立ち上がろう」という理念が、あなたのセンターを熱くしていくのです。

3 立ち上げ期

3 立ち上げまでに必要なこと

災害VCの設置場所の選定

- 設置場所については、あらかじめ市町村や関係団体と協議のうえ候補地を決めておく
- 被災地までの距離や設備、被害状況なども考慮し、設置場所を選定する
- 事前に設置を予定していた場所が安全かどうか、使用可能かどうかを確認する
- 被災地域が何か所に分散している場合は、サテライトの設置を検討する

資機材の調達や災害VCのインフラ整備

- 被災状況により必要な資機材の種類や数を見積もる
- 備蓄の資機材で不足する場合は、京都府災害VCや協定を締結している企業等から調達する
- 電気、水道、通信手段等のインフラを確保する
- 資機材調達やインフラ整備について、自組織だけではなく関係団体のもつ資源を日ごろから知っておくことで、災害時に協力を仰ぐことができる

ボランティアの募集の設定

- ボランティア募集を呼びかける範囲を決める
- ボランティア保険の取り扱いについて決めておく(個人負担/センター負担etc.)

災害VCの組織構成

- 必要な係及び、各責任者を選出する。状況に応じて体制は変更する
- マニュアルにとらわれず、災害の種類、規模、被災者の状況に応じて、組織の規模を決める

センター設置の広報・周知

- 災害VCの設置を被災者へ知らせる
- ボランティア活動者へ向けた活動情報を知らせる
- 報道機関等に対しプレスリリース等の公式発表を行う
- 避難場所、被災家屋へのチラシの配布、ホームページ、SNS等を利用し幅広く知らせることが重要

参考「赤い羽根共同募金の助成金を活用した備え」



チェックポイント

< 設置場所を決める際の条件 >

- 被災地内または被災地に近いかどうか(被災地での活動を円滑にするため)
- 公共交通機関から近いかなど交通至便な場所かどうか
- 広い駐車場があるかどうか
- 大規模災害の場合、1日千人規模のボランティアに対応できるスペースがあるかどうか(テントの複数設置や大型バスの駐車などが可能か)
- 事務用品や資機材の保管ができるかどうか
- IT等のインフラや電気、水道等ライフラインはどうか
- 資機材の保管スペース、トイレ、更衣室が確保できるかどうか
- 建築基準や立地条件が、二次災害の防止に有効であるか
- 支所(サテライト)を設けるかどうか
- 人の動線が機能的・効率的な空間デザインができるかどうか
- 長期間継続して使用可能かどうか
- 閉所後、現状復帰のしやすさ



災害ボランティアセンター(事務局)に必要なモノ

まずは、
事務体制を整えよう

- 事務スペース テント 机・イス 棚・ロッカー類 ホワイトボード
- 通信機器など 固定電話(複数回線) 携帯電話(複数回線) 携帯電話充電器
 FAX プリンター パソコン(複数台) 無線機
 ラジオ テレビ LAN設定のための資機材
- 資機材 印刷機 コピー機 延長コード 書類ケース カメラ
- 車両 トラック 自転車 ワゴン ライトバン・箱バン
 バイク・スクーター
 ※全てが必要という訳ではありません。
- 消耗品 各種印刷用紙 模造紙 色マジック(油性・水性)
 文具(筆記用具 セロテープ はさみ カッター ホッチキス
 パンチ ファイル カッターボード その他)
 付箋(各種・各色) ガムテープ(布・紙) 養生テープ
 クリップボード 消臭剤 ブルーシート 軍手
- その他 スタッフビブス(ジャンパー、腕章、名前シールなど)
 地図(住宅地図、市街地図、道路地図など) 電話帳
 発電機 ドラムコード 夜間照明用投光器 ゴミ箱
 救急箱 乾電池 クーラーボックス ヘルメット
 タオル 給水器 灰皿(喫煙場所の確保)
 看板 のぼり旗

3 立ち上げ期

立ち上げ期情報・ひと・もの・お金

情報



発信

- ・ ネットワーク間での情報収集
- ・ 災害VCの動向(設置に向けた準備段階である等)の発信
- ・ 被災者に向けた災害VC開設のお知らせ
- ・ ボランティアへ向けた活動募集のお知らせ
- ・ マスコミへの発信

収集

- ・ 被災情報の収集
- ・ 被災者ニーズの収集

共有

- ・ 収集された情報を集約分析し、関係者で共有
適切な判断につなげる

ひと



- ・ ボランティア
- ・ 市町村災害VCの加盟団体や登録団体
- ・ 京都府災害ボランティアセンター初動支援チーム
- ・ 市町村社協連合会相互支援協定による職員派遣
- ・ その他府内、府外の支援団体
- ・ 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議
(支援P)

もの

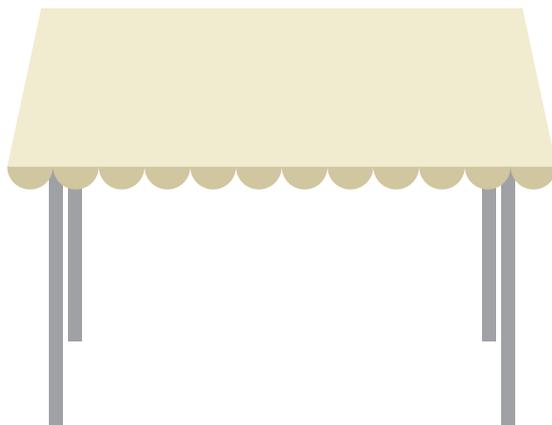


- ・ 災害VC設置場所の決定
- ・ 事務所機能の整備(インフラ)
- ・ 資機材の保管場所や調達ルートの確認
- ・ 必要な資機材のリストアップ、見積もり、発注
- ・ 京都府災害VCや府内市町村災害VCからの
資機材調達
- ・ 災害支援団体や協力企業等からの資機材調達

お金



- ・ 災害VCの活動資金の調達
- ・ 募金活動の展開



1 平常時

2 警戒期

3 立ち上げ期

4 復旧期

5 生活支援期

6 復興期

災害時の資機材調達・管理のポイント

- 平常時から災害を想定し、必要な備品等をリストアップし、できるだけ準備しておく。
※非常時に入手困難となりそうなものや、固有・個性の高いものからそろえていくという考え方もあり。
- 平常時には不要な備品等については、災害発生時にはすぐに調達(購入や借り入れ)できるよう、関係機関・団体、企業などと事前調整しておく。
- 資機材の破損や紛失なども考えられるため、個人の持ち物や機材等は借用しないようにする。
- 資機材の種類や数量も多いので、管理表などを作成し備品の管理を行う。また、資機材の置き忘れ、紛失などは、事故やけがの原因となるので適切に管理する。
※救援物資や資機材は、事前の連絡がなく突然届くこともある。

救援物資

市町村の災害対策本部へ運び、他の物資と一緒に分配等してもらう。ただし、被災者に渡しやすく、有効活用できると判断されたものについては、市町村災害 VCから直接被災者や避難所へ配布することも考えられる。

資機材

大量に届いた場合は、その資機材を必要としている他の被災地災害VCと調整する。
余剰分は保管しておき、災害VC閉所後、活用してもらえる団体等に寄付をしたり、借りた資機材は返却をする。

災害ボランティアセンター(事務局)に必要なモノ

水害

- | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> スコップ | <input type="checkbox"/> 土嚢袋 | <input type="checkbox"/> バケツ | <input type="checkbox"/> 一輪車 | <input type="checkbox"/> ほうき | <input type="checkbox"/> ちりとり |
| <input type="checkbox"/> ごみ袋 | <input type="checkbox"/> たわし | <input type="checkbox"/> じょれん | <input type="checkbox"/> 十能 | <input type="checkbox"/> ビニールホース | |
| <input type="checkbox"/> てみ | <input type="checkbox"/> 雑巾 | <input type="checkbox"/> モップ | <input type="checkbox"/> スポンジ | <input type="checkbox"/> デッキブラシ | |
| <input type="checkbox"/> 工具セット | <input type="checkbox"/> ジョーロ | <input type="checkbox"/> ダンボール | <input type="checkbox"/> ビニールロープ | <input type="checkbox"/> 水切りワイパー | |
| <input type="checkbox"/> トラック など | | | | | |

【ボランティア用】

- | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> ゴム手袋 | <input type="checkbox"/> 皮手袋 | <input type="checkbox"/> 長靴 | <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> 合羽 |
| <input type="checkbox"/> 石鹸 | <input type="checkbox"/> 消毒薬 | <input type="checkbox"/> 消毒液 | <input type="checkbox"/> タライ など | | |

地震

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> バール | <input type="checkbox"/> スコップ | <input type="checkbox"/> ハンマー | <input type="checkbox"/> 金槌 | <input type="checkbox"/> バケツ | <input type="checkbox"/> ほうき |
| <input type="checkbox"/> ちりとり | <input type="checkbox"/> つるはし | <input type="checkbox"/> 工具セット | <input type="checkbox"/> 電気工具 | <input type="checkbox"/> 発電機 | <input type="checkbox"/> 一輪車 |
| <input type="checkbox"/> 脚立 | <input type="checkbox"/> ジャッキ | <input type="checkbox"/> ごみ袋 | <input type="checkbox"/> 雑巾 | <input type="checkbox"/> ビニールロープ | |
| <input type="checkbox"/> トラック | <input type="checkbox"/> 土嚢袋 | <input type="checkbox"/> コードリール など | | | |

【ボランティア用】

水害時のボランティア用品にプラス ヘルメット 安全靴 ゴーグル など

3 立ち上げ期



1 平常時



2 警戒期



3 立ち上げ期



4 復旧期



5 生活支援期



6 復興期

災害VC様式集
ガイドライン

コラム

災害ボランティアセンターとミッション

みなさんの地域が災害に見舞われ、災害ボランティアセンターを開設することになったとしたら、その初動期に何をしなければならないでしょうか？被災状況の把握、ニーズの把握、ボランティアセンターの設置場所の確保、受け入れの仕組みづくり、活動のための資機材の調達…短い時間に多くのことを判断し準備していかなければなりません。センターの活動は、一度動き始めると次から次へと対応に迫られ立ち止まって考えたり、振り返る余裕がないまま時が過ぎ去っていきます。

豪雨災害時のあるセンターでは、数日が経ったある夜、被災地の社協職員が「泥を出すことは大切だが、それに追われて、被災した地区社協の人たちと話し合うことができていない。地域のことを考える余裕がなかった」と話しました。これでよいのだろうか？と気づいても、多忙と疲労を極まる中で、「そもそも、自分たちは何をめざすのか」を考え、活動の方向を修正することは容易ではありません。

そこで、初動期に、センター長をはじめとするスタッフ全員が、ミッションつまり、このセンターの目的は何か？何のために存在するのか？を明確にして、共有しておくことが大切です。想定外の対応と判断が必要なときに、立ち返るべき考え方の軸となるのもミッションです。また、京都府内外から交代で多くの支援者が駆けつけますが、その際も、ミッションを共有できれば、連携しやすくなり、協働の活動を広げることができます。

私たちは、これまでの豪雨災害での活動の反省として、災害ボランティアセンターの目標は泥を取り除く支援だけではなく、被災した地域、被災した人の困りごとに寄り添うことが大切だと学んできました。その学びを生かすためにも、災害ボランティアセンターのミッションを明確にして、共有すること大切にしたいものです。災害への備えとして、平常時にこそミッションをつくっておいてはいかがでしょうか。常設(協定)型であることの意義でもあります。

参考

これまでの災害ボランティアセンター活動の中で、リーダーから次のような言葉を聞いたことがあります。センター全体で共有されることはなかったためミッションにはなりませんでした。みなさんの災害ボランティアセンターのミッションを考える上で参考にしてください。

『いつまでもボランティアがお手伝いするのではなく、地域の人がお互いに助け合って復旧・復興できるように支援しないといけない。災害ボランティアセンターの役割は被災した人たちが、働きに出かけたり、学校に通える状態に戻るようにすること。被災した人たちのニーズを取りこぼさないようにしたい！』